

セアカゴケグモとハイイロゴケグモ

海外から入ってきた毒を持つクモ



セアカゴケグモの背面（メス）



セアカゴケグモの腹面（メス）



ハイイロゴケグモの背面（メス）



ハイイロゴケグモの腹面（メス）

発生時期												
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

発生   多い

日本では生息していないと考えられていたセアカゴケグモとハイイロゴケグモが、平成7年に大阪府や横浜市、東京などで発見されました。これらのクモは熱帯・亜熱帯地方に分布し、メスは体長約1cm、腹部等に赤色の帯があるなどの特徴をもっており、輸入貨物と共に日本に入ってきたものと考えられています。

生態

排水溝やマンホールのふたの裏側、ベンチの裏側、石積み回りのくぼみの穴などに生息しています。

攻撃性はなく、通常、素手でつかまえない限り咬まれることはありません。

被害

神経毒を有しています。毒性は強いが毒量が少ないため、重症となる例はあまりないようです。しかし、毒に対する反応は体質によっても異なります。

咬まれると赤く腫れ、局所的に痛みと発汗が起こり、ひどい場合は全身に広がることもありますので、幼児、心臓の悪い人、老人などが咬まれた場合は注意が必要です。

万一咬まれた場合は、咬まれた部分を水で洗い、毒を落とし、医療機関に相談しましょう。

駆除

市販のゴキブリ用殺虫剤を噴霧するか、踏みつぶす等の方法で駆除します。